

新谷貞夫・三島 毅・牧野正彦・小林隆輔・中居邦浩・坂田真弘 (1985): 地層処分性能評価研究. 昭和60年度, 原子力学会年会要旨集 (第II分冊), 51p.

菅野貞治 (1982): 高レベル廃棄物の処分におけるマルチバリアーシステムについて. 昭和56年度, 文部省総研 (B) 「高レベル放射性廃棄物の安全処分に関する研究」, 51-54.

高橋秀明・橋田俊之・玉川欣治・湯田周二・鈴木正彦 (1984): AE 法による花こう岩の三点曲げ破壊靱性試験法の提案. 日本鉱業会誌, 100, No. 1151, 17-21.

角田直己 (1983): 動燃事業団における放射性廃棄物の処理・処分. 原子力工業, 29, No. 4, 31-38.

NAKANO Keiji and KOIDE Hitoshi (1991): Performance assessment system of natural barriers for high-level radioactive waste.

<受付: 1991年2月12日>

地学と切手

古脊椎動物三題

P. Q.

Ankylosaurus 赤道ギニア, 1980年発行, 鳥盤目の恐龍で白亜紀後期に生息した. よろい龍の仲間. 丈が低く体長約5mで四脚歩行し, 動きは鈍い. 首・胴・尾の上と全表面が鱗の様な板で覆われ, 他の肉食動物の歯が立たないように出来ていた. 同じ仲間のボランカンタスやスコロサウルスには棘があったが, アンキロサウルスにはそれがないが, 敵から攻撃されたら胴を少し下げると難攻不落だった. よろい龍は現代のアルマジロと同様に, 地中にもぐって昆虫などを食ったのではないかとされている.

Moschops コンゴ, 1975年発行, 爬虫類獣か目, ペルム紀中期, この目は爬虫類の初期に出現した目で, ジュラ紀早期には滅亡した. カルー層から産する. 体長約2.5m, 肩高約1mの重厚なスタイルで, 胴は太く, 四肢も太く重く, 足の幅は広い. 四肢をふんばり乾燥した陸地の上を歩き廻っていたであろう. 歯はヘラ状で13対以上並び草食性だったと思われる. モスュプスとはギリシャ語で「若い子牛の顔」と言う意味.

Megolocnus キューバ, 1958年発行, 哺乳類獣亜綱貧歯目体長44cmの小形で, キューバやハイチの更新統から産出する. 体格はきゃしゃで, 四肢も細く爪も発達しない. 頭は短く歯は柱状で簡単なことはナマケモノに似ている. 多分柔い葉を食べていたであろう. 体毛はふさふさしていたらいい.

